

1. 福井大学におけるPBL事例

<実施事例>

福井大学×一般社団法人日本自動車連盟福井支部

『ドライブ観光客の周遊・滞在実態の調査と地域へ誘導するための企画立案』

【指導教員】 人文社会系部門（総合グローバル領域）飯田 健志 准教授

【参加学生】 国際地域学部 国際地域学科 2年生 1名

【活動期間】 令和5年7月～令和6年2月

【コーディネーターマッチングの有無】 なし

<協働先の課題>

- ・ドライブ観光による地域経済の活性化、ドライブ観光客の周遊・滞在実態把握
- ・観光客を観光地から地域へと誘導し地域での消費を促すための企画

<学生の取組内容>

- ・現状把握のため文献調査を実施し、その分析結果をまとめ、JAF福井支部で報告
- ・現地での観光客の動きを把握するため、現地調査を4回実施し、観光客の消費行動やお土産品などを調査
- ・調査結果を踏まえ、JAF福井支部と協働しアンケート調査を4か所で行った
- ・アンケート調査の結果をもとに、観光客の消費を促すような観光周遊ルートを作成

<事業成果>

- ・調査の結果、福井県の観光振興のため観光客の消費を促す必要性があり、消費額などの調査結果をもとに、観光客の消費を促すような観光周遊ルートを企画した。
- ・現状分析をもとに課題解決のための企画を行ったことで、現状を認知する力、分析力、実践力が身に付き、地域に根差した実践的な人材育成につながった。



<協働先からの感想>

- ・これまで消費活動に着目した取り組みは少なく、消費活動が活発になれば地域活性化につながるため、良い取り組みである。

2. 福井県立大学におけるPBL事例

<実施事例>

福井県立大学×小浜市産業部文化交流課×小浜市の歴史と文化を守る市民の会 『小浜市の魅力向上と小学生のための歴史・文化学習ツールの開発』

【指導教員】 学術教養センター 國崎大恩准教授

【参加学生】 経済学部、海洋生物資源学部 1～2年生 9名

【活動期間】 令和5年5月～令和6年3月

【コーディネーターマッチングの有無】 あり

<協働先の課題>

- ・小浜の歴史・文化を紹介した冊子の内容が難しく、子供たちとのミスマッチが大きい。
- ・学校のデジタル化に伴い、冊子等の従来メディアでは授業等において活用が難しい。
- ・北陸新幹線全線開業を見据えた、小浜がもつ歴史・文化の魅力を効果的に発信する。

<学生の取組内容>

- ・小浜市の歴史・文化を学ぶフィールドワーク
- ・小浜市教育長による講演
- ・小浜市内小学校の視察
- ・小浜市小中学校教務主任会での構想発表
- ・小浜の歴史と文化を子供が学ぶための効果的な学習ツールの開発

<事業成果>

- ・小浜の歴史と文化を学ぶために開発した学習ツールを教育委員会へ贈呈

<協働先からの感想>

- ・ふるさと学習等、学校現場で活用できる学習ツールを開発していただいた。今後、小浜市の小学校で実際に活用していきたい。



小浜市教育長による講演



フィールドワークの様子



フィールドワーク後の意見交換

3. 福井工業大学におけるPBL事例

<実施事例>

福井工業大学×協同組合勝山サン・プラザ、勝山市商工文化課 『小売業のマーケティングへのAI・データ分析活用』

【指導教員】 AI&IoTセンター・電気電子情報工学科 芥子育雄 教授

【参加学生】 工学部電気電子工学科4年生2名、大学院工学研究科応用理工学専攻電気電子情報工学コース2年生1名

【活動期間】 令和5年4月～令和6年2月

【コーディネーターマッチングの有無】 あり

<協働先の課題>

- ・地域の活性化と勝山サン・プラザの競争力向上を図るために、2023年3月のリニューアル後の効果をどのように測定し、顧客基盤を拡大できるか

<学生の取組内容>

- ・POSデータと人流データを収集・分析してリニューアル効果を定量的に捉える。
- ・時系列分析、顧客行動理解のRFM分析、顧客生涯価値を示すCLV分析を実施。
- ・リニューアル前後でのデータ比較により、客層の変化や商品の売れ行きを調査。

<事業成果>

- ・顧客価値の向上：専門店では、リニューアルが顧客の長期的な価値向上に貢献したことを実証し、勝山サン・プラザの持続可能な発展に繋がる戦略を提案。
- ・経営戦略への貢献：店舗間連携強化や特定顧客層に対するマーケティング戦略の再構築、地域資源連携による新規顧客獲得策が勝山サン・プラザの経営改善に貢献。



(R6.2.8 成果報告会の様子)

<協働先からの感想>

- ・学生の参画により、従来とは異なる新しい視点での分析やアイデアの提案が可能となり、実際のビジネス課題への対応策が豊富になった。生のデータを活用した実践的な分析経験は、学生にとっても有意義であり、勝山サン・プラザの将来戦略にも新たな可能性をもたらした。

4. 仁愛大学におけるPBL事例

<実施事例>

仁愛大学×小浜市産業部文化交流課

『地域の伝承を伝えるための絵本「若狭小浜小鯛ささ漬物語」の制作』

【指導教員】人間生活学部子ども教育学科 伊東知之 教授

【参加学生】子ども教育学科3年生 5名

【活動期間】令和5年4月～令和6年3月

【コーディネーターマッチングの有無】あり

<マッチングの経緯>

- ・令和5年2月9日：コーディネーター、小浜市文化交流課とのミーティング
- ・令和5年6月16日：小浜市交流課と内容等のミーティング
- ・令和5年7月7日：小浜市交流課による学生向け説明会と試食会
- ・令和5年8月25日：小浜市小鯛ささ漬工場、販売所見学

<協働先の課題>

- ・地元を代表する特産品である若狭小浜小鯛ささ漬の認知度が低い。
- ・地元の人でも実際の食体験が少ない。

<学生の取り組み内容>

- ・小浜若狭小鯛ささ漬の歴史や現状等について調査（現地視察を含む）。
- ・調査を基に絵本の構成を検討。
- ・絵本の文章、絵を作成。



<協働先からの感想>

- ・学生の視点から描かれた絵本は、親しみやすい絵本になるように感じられる。そしてその絵本を小さいときから読むことによって、地元の特産品に関心を持つようになり、伝統である小鯛のささ漬についての興味が増すことを期待している。

5. 敦賀市立看護大学におけるPBL事例

<実施事例>

敦賀市立看護大学 × 美浜町（美浜町役場・健康福祉課・美浜町山東公民館〔佐田出張所内〕）
『美浜町住民が看護大学生と共に行う健康づくり』

【指導教員】看護学部看護学科 教授 家根明子 講師 横山浩誉
【参加学生】看護学部看護学科 3年生 32名
【活動期間】令和5年6月～令和5年7月 【コーディネーターマッチングの有無】なし

<協働先の課題>

- ・美浜町は、福井県内においても高齢化率が高い（美浜町：37.9%／福井県：31.3%：2022-2023年）。
- ・このような現状から、住み慣れた地域でその人らしい生活を送り続けることを可能にするため、住民（町民）同士が支え合い、見守り、つながる必要性が考えられる。
- ・そのためには、まずは、自分自身の健康づくりは必須である

<学生の取組内容>

- ・事前調査（地域の特性や特徴を把握するため）
- ・学生と教員による地域訪問、地域の環境把握（フィールドワーク）
- ・地域訪問等の結果の分析
- ・地域特性に合わせた健康教室の企画・準備・実施
- ・事業活動状況等に関する情報発信 など

<事業成果>

- ・訪問調査による地域特性に合わせた健康問題の分析
- ・地域特性に合わせた健康教室の企画・準備・模擬健康教室の実施（学内にて）
（※日程の都合上、住民（町民）への健康教室は実施できなかった） など

<協働先からの感想>

- ・「若い人（大学生）が美浜町に興味を持ってくれたことが嬉しい」（フィールドワークの際に町民の方から）
- ・「年代が違う人と健康について話をするのはあまりないから良い機会だった」（健康サロンに参加の町民の方から）



<フィールドワーク（美浜町）>



健康サロン見学（美浜町）

6. 仁愛女子短期大学におけるPBL事例

<実施事例>

仁愛女子短期大学×株式会社とば屋酢店、株式会社 米五 『栄養士養成課程における郷土の食文化継承』

- 【指導教員】生活科学学科 森 恵見講師
【参加学生】生活科学学科 食物栄養専攻1年生 31名
【活動期間】令和5年4月～令和6年2月
【コーディネーターマッチングの有無】なし

<協働先の課題>

- ・若い世代への郷土の食文化を広げる
- ・日本の食の代表的な調味料の普及

<学生の取組内容>

- ・福井の郷土料理や食文化、企業について調べ、福井県における食文化継承の問題点を探るためのグループワーク
- ・企業訪問（研修旅行）
- ・各グループに分かれ、食文化や酢や味噌に関する発表

<事業成果>

- ・活動内容を大学HPに掲載
- ・発表会の動画を作成し関係機関に公開

<協働先からの感想>

- ・福井の味噌を食べ比べして味を比較したり、栄養豊富な食材の食べ合わせから逆算してレシピをつくったりと、新しい視点で業界をみていただきこちらも参考になりました。
- ・消費者の嗜好や環境が目まぐるしく変わっていく現代において、若い視点こそが福井の食を変えていける重要なものであると期待しています。



7. 福井工業高等専門学校におけるPBL事例

< 実施事例 >

福井工業高等専門学校 × 旭化学工業株式会社 『学生が手がける硫黄を含む化合物の用途開拓』

【指導教員】物質工学科 松井教授 ほか2名

【参加学生】物質工学科5年生 12名

【活動期間】令和5年6月～令和6年2月

【コーディネーターマッチングの有無】なし

< 協働先の課題 >

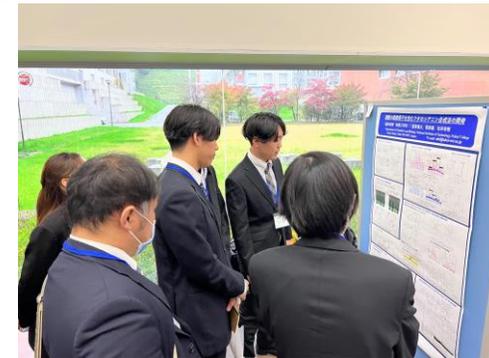
- ・新たな販売先開拓のための従来品の用途開拓
- ・新卒等での若い専門知識のある従業員の雇用

< 学生の取組内容 >

- ・実験内容等の打ち合わせ、企業の実験、研究場所の見学、懇談
- ・硫黄を含む化合物の用途開拓の試験研究
- ・得られた成果の学会での発表、卒業研究発表会での発表

< 事業成果 >

- ・日本化学会近畿支部の北陸地区後援会と研究発表会にて学生がポスター発表し、優秀ポスター賞を受賞
- ・工業化学日報社の北陸特集に旭化学工業株式会社との活動内容が掲載



< 協働先からの感想 >

- ・今後も交流を通して良好な関係を継続し、学生にとって就職したい企業でありたいと思う